

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 23 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	朱 珉
研究課題	中国の就労支援について				
研究キーワード	中国 就労支援 社会扶助 雇用	当年度計画に対する 達成度	2. 順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	1. 貧困をなくそう	3. すべての人に健康と 福祉を	8. 働きがいも経済成長 も	10. 人や国の不平等をな くそう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>デジタル経済の発展により、中国では伝統的な雇用形態と異なる「プラットフォーム就労」が増えている。また、政府は若者の就労政策として起業を推し進めている。つまり、先進国は「完全雇用」を前提に「社会保障」を構築してきたが、今やその前提が大きく変化した。</p> <p>2022 年度はまず中国の就労政策について整理し、そして、就労困難者を対象とする就労支援政策を調べた。研究成果として、2022 年 5 月に開催された社会政策学会第 144 回大会の分科会で報告を行った。学会での議論から、国際比較の視点からみた中国の特徴とはなにかについてさらに考え、その内容を文字化にし、11 月に原稿を完成した。大分大学の阿部誠先生のプロジェクトに参加しているため、プロジェクトの最終成果として著書刊行が予定されている。完成した原稿はその中の 1 章となる。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>「形成過程から中国社会保障の問題点を探る」CUC View&Vision No.55</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「中国における就労困難者への就労支援」社会政策学会第 144 回大会</p> <p>3. 主な経費</p> <p>① 就労政策だけでなく、福祉国家などの関連書籍の購入に使用した。</p> <p>② 研究会の参加および今後の研究に関する打ち合わせのため、京都出張を行った。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>研究代表者：田中聡子（県立広島大学）「福祉サービスの質と政策評価—東アジア 3 カ国（日本・韓国・中国）を中心に」 国際共同研究加速基金の分担者</p> <p style="text-align: right;">(本文は 2 ページ以内にまとめること)</p>					